



羽化したアブラゼミ (セミ科)

昆虫や花を撮り続けるアマチュア写真家上沼ミツさん(鳥原)——夜明け前に撮った写真です。撮りながら感動を覚えました。生命とはなんて美しいのではありませんか。六、七年間も地中においてお日さまの下では一週間は生きられないんです。カエルやチョウ、バッタ、トンボ、カマキリ……小さな生物の大きな生命力を撮り続けたいですね。十年ぐらいい前から撮り始めましたが、最近少なくなりました。農業や車、宅地開発の影響でしょうか。



霊長類ヒト科

だけじゃないんだぜ



ハクセキレイ (セキレイ科)

日本野鳥の会会員の滝上哲哉さん(黒埼中教諭)——黒埼町では二、三十種類の野鳥を見ることが出来ます。ハクセキレイは一年中います。スズメより少し大きくてチュチュン、チュチュンと鳴いています。ほかにはハト、ツバメ、カワラヒワ……。特長といえば、川辺にすむ鳥が多いですね。ヨシの間にはオオヨシキリ、信濃川大橋や田んぼにはウミネコがきます。冬には佐潟と鳥屋野潟を往復している白鳥も。注意すれば野鳥と出会えます。



町は

 生きている
報 広

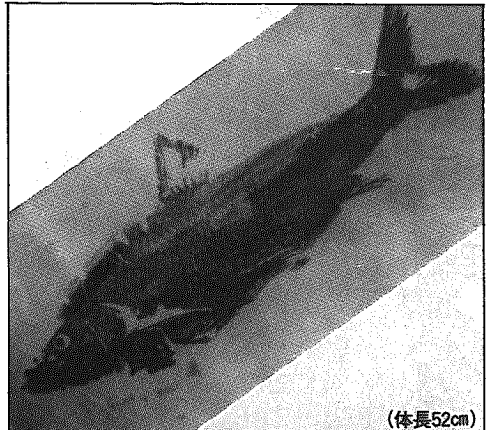
くろさき

1986
8
No.275



オオバコ (オオバコ科)

百五十種ほどの植物採集をしている小黒一良さん(黒埼中教諭)——オオバコはゲエロッパとかスモウトリグサとも呼ばれてよく見かけます。子供のとき茎をからみ合わせて引き合いつこをさせませんでしたか。黒埼町は田園地帯ですので、イヌビエなどイネ科の植物が多いですね。また、宅地の造成で土砂がよそから運ばれてきますと、新しい植物が入ってきます。モジズリやコバンソウがそうです。海辺のコウボウムギも町内で見られます。



(体長52cm)

ミ(ニ)コイ (コイ科)

四十年近い太公望、鈴木金一さん(大野五区)——マブナ一本、四十年近く釣っています。魚拓はミゴイですけれど。夏はどこでも釣れますよ。緒上げ、味方下げや排水機場がいね。中の口川も釣れるし、大通り川はヘラブナがいる。冬はカンブナ、二月、三月はイトヨ、春はマブナ。ただ、六月と七月はだめ、農業まくからね。最近、魚が増えてきたよ。農業が規制されたからかな。カワガニ、ナマズ、ライギヨなんか戻ってきたね。



町の生物たち

夏休みに昆虫採集する
桜井秀次君(興野保)
斉藤正勝君(大野小)

